

第3回新県立中央図書館DX検討に関する有識者会議 主な発言

区分	主な意見
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・視点1から視点5は県民目線で見えた特徴であるが、関連性がよく見えない。各視点の位置づけを簡易に記載。 ・各視点について、関連しているということが見えるように。大きな話は視点1の県民の交流の場、それを支えるためのいくつかの方法が各視点。このような各視点の関係を一言述べるだけで、大分違う。
視点1	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者との連携に関して、図書館の専門職がどう関わっていくか、方向性など書き込むべき。視点1は人の関わりが見えない。 ・図書館未利用者が交流スペースに参加していくことが理想であるが、既存利用者による未利用者への間接的な波及効果も重要。 ・ユーザーサイドの方々の主体性・自立性が、他の県民に対して向かっていく。その双方向的な関係性も表した方がよい。 ・従来の図書館機能の部分と新しく指定管理者の運営になる部分が、なるべくシームレスに繋がったような形で運営できるといい。 ・図書館未利用者が交流スペースを使うことによって、地域の既存の公共図書館を含めた県立図書館の従来機能にも着目してもらえる。 ・オンラインとリアルな交流スペース、そこでハイブリッドな形で皆で本を読む取組などは、一つの交流スペースの売りになる。 ・立地的に浜松市民にとってはなかなか利用する機会がない。中部だけでなく県民への波及を少し強調するとよい。
視点2	<ul style="list-style-type: none"> ・民謡やお祭りのお囃子など、これから消えていくかもしれない口伝のようなものをアーカイブする仕掛けとして場を活用できる。
視点3	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者が自由に選べるパーソナライズサービス」のような言い方が、ソフトランディングしやすい。あくまで主体性は利用者側。 ・パーソナライズサービスは、今までの既存ユーザーがより使いやすくするということがまず第1の目的、もう一つは既存ユーザー同士で交流の場に一緒に行こうよといったような誘導を実現するような手段としてあり得る。
視点4	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報などを場合によっては特定できてしまう危険性があり、そこをもう少し意識した書き方にする方がいい。 ・人流の統計的な把握や、図書館外での車両番号を活用した駐車場管理などはよいが、笑顔検知など顔認証については、やはり利用者の同意を得た上でやる必要がある。その場合はそういう部分が見えるような提示の仕方がよい。 ・個人情報ではなく、例えば人流把握のためのスマホの位置データ活用など、あくまで統計的、マクロなデータという点を明記すべき。 ・車番は個人情報ではないけれども、これを勝手に収集されるということに対して、ユーザーが何か思うところあるかもしれない。 ・年式や型式までの情報を使って、年収や家族構成等の推定に利用することが可能、という文章の方が誤解を招かないのではないか。
視点5	<ul style="list-style-type: none"> ・フルテキストサーチは、基本的に全文テキストが前提。「本の全文テキストを利用」等の方が、少し広めの表現でよい。 ・青空文庫など、すでに著作権が切れていて電子テキスト化されている様々なコンテンツに対して少し言及をしてもよい。 ・自分で作り上げた本をまた読む、それも新しい意味での括弧つきの読書と言える、そういう時代が来るかもしれない。
視点6	-
視点7	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館のDXを支えるには、トップレベルの専門的な知識を持つ職員の育成に加え、すべての図書館職員の底上げが必要。 ・底上げの仕組み。内部できちんと研修機会を作っていく。参加しやすい職場の雰囲気作りや制度、出張予算の確保など。 ・一般的に職員が使えるICT環境が貧弱。例えば、オンライン会議が一人一人できるような設備などが必要。 ・職員のテレワーク環境の充実も重要。在宅オンライン勤務、端末、ネットワークアクセス、ファイル共有、チャット機能など。 ・DX化にチーム的に動いている公共図書館は一館とないと言ってよい。静岡県で事例を作っていくしかない。 ・とても優れた方プラス全体の底上げを図る、チーム体制・組織体制の確立。組織、人事的な問題として切り込み、きちんと記述する。 ・様々な民間的な活動、並びに、県立大学がせつかく近隣にあるので、大学等との連携によってスキル維持・向上に努めていく。 ・インターネットアクセスを提供する図書館であるということに関してもっと書き込みがあってもよい。 ・県民が自宅から県立図書館が契約しているオンラインDBや電子ジャーナルにアクセスできるような環境の整理等も、これからのサービスの視野に入れていく必要がある。これに関しては今すぐ反映ということではなく、引き続きの協議の中で意見交換していければよい。 ・データの格納・参照はそれぞれサービスによって適切なものを選ぶのがいい。特にフルテキスト検索等をやりたければ、強力に圧縮した状態で検索ができるデータベースの構築等もできるので、サービス依存で最適なデータの保存方法が変わってくる。
視点8	-